



Save the Beach in 長崎

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
平成 23 年度「知的障害者バレーボールチームの育成と強化事業」

事業報告書

特定非営利活動法人 Save the Beach



「特定非営利活動法人Save the Beach」の目的等

各スポーツ界の一線で活躍している選手達によるスポーツを通して交流の場を提供し、スポーツ大会の開催、スポーツ指導者の派遣、スポーツ振興に案する普及を含め、子供から高齢者の方々の広く一般市民に対し、生涯にわたりスポーツを楽しみ、心の育成や健康で生きがいをもって暮らせる社会の実現に寄与することを目的とする

この法人は、上記目的を達成するため、次の活動を行う

- (1) 子どもの健全育成を図る活動
- (2) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (3) 環境の保全を図る活動
- (4) 社会教育の推進を図る活動
- (5) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

この法人は、上記目的を達成するため、次の事業を行う

特定非営利活動に係る事業

- (1) スポーツ教室開催事業
- (2) 環境保全に関する事業
- (3) スポーツ教育に関する事業
- (4) スポーツ振興に関する普及、啓発事業
- (5) その他目的を達成するために必要な事業

私たち Save the Beach は、2010 年に NPO 法人格を取得後、通年、スポーツ教室やスポーツイベントの開催、環境保全活動などを実施してまいりました。このたび、「独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業」として、平成 23 年度「知的障害者バレーボールチームの育成と強化事業」Save the Beach in 長崎の開催にあたり、長崎県障害者スポーツ協会はじめ社会福祉法人つばさ会 赤木学園ほか関係各団体様のご理解とご支援ご協力を賜り厚く御礼申しあげます。

2010 年 8 月に、初めて講師として知的障がい者施設合同研修会にお招きいただき皆様の前でお話しさせていただく機会を得て、さらに同年 10 月には、長崎県障害者スポーツ協会内のバレーボールチームに対してスクールを実施したことがきっかけで、本年度、このような形で実施できたことは大変喜ばしい限りです。また、地元の長崎新聞様にはご取材にきていただき、活動を広く知っていただく機会となりました。これもひとえに関係者皆様のお力添えがあったからにほかなりません。この経験を活かして、2014 年の長崎国体と同時開催される全国障害者スポーツ大会出場に向けて、さらには優勝に向けて邁進していければと願ってやみません。

東日本大震災を機に、あらためてスポーツの力が問われました。私たちはスポーツが人々の生きる力に繋がるものと信じています。私たちの活動は小さな一歩ではありますが、「ひとり一人の力の結集が大きな力に変わる」ことを信じて、繋がっていく人々の『輪』を世界中に広げていくことを目指します。

特定非営利活動法人 Save the Beach
理事長 西村 晃一



開催概要

■スクール概要

[第1回]

開催日・場所:平成24年1月7-8日 大村市公共施設 体育文化センター(シーハットおおむら)

対象者数:20名 13～18歳 知的障害児者(男女)

[第2回]

開催日・場所:平成24年2月5日 県立ろう学校体育館

対象者数:14名 13～16歳 知的障害児者(女子)

[第3回]

開催日・場所:平成24年2月18日 県立虹の原特別支援学校体育館

対象者数:23名 13～18歳 知的障害児者(男女)

講師:西村晃一、菅山かおる、鈴木康晋、畑辺純希(いずれもプロ選手)

主催:特定非営利活動法人Save the Beach

協力団体:長崎県障害者スポーツ協会、知的障害児施設みのり園、社会福祉法人つばさ会 赤木学園、長崎県立鶴南特別支援学校、長崎県知的障害者福祉協会ほか

■プログラム

まず最初は、挨拶にはじまり練習方法およびメニューを説明し、全員で体操～ランニング～ボールゲームを実施。当初バレーボールに触ることすら出来ない子もいたので、ボールを持つこと、そしてボールで楽しく遊ぶことから始めました。楽しく遊ぶことができ始めて、基本動作でもあるアンダーパスやオーバーパスのやり方を教え、実技に入っていくよう心がけました。その後、チームを作って、円陣を組んでボールを落とさず1分間で何回繋ぐことができるか、といったゲーム要素が強く各チームで回数を競い合える種目を実施しました。単なる競争に終わることなく、時には30回続くまでそのチーム毎でやり続け、「みんなで協力し合って、一つの目的を達成する」という意味を理解してもらうため、さらには「達成した時の喜び」を味わってもらうため、このメニューは毎回のように何度も何度もこなしました。そして、ボールゲームなどで心も身体も和んできたところで、技術的な指導(レシーブ・アタック・サーブ練習)やチーム練習を毎回、実施することにしました。特に、一人の力でもできるサーブ練習は、今回のスクール中、最重要テーマと位置付け、練習の中で最も力を入れた強化種目です。極端なことを言えば、サーブさえ上手に決めることができれば、仮に試合中であれば得点になりチームを勝利に導くことができますので……。また、当初は多くが入らなかったサーブが、最終回である3回目のスクール時には全員が入るまでにレベルアップしました。こうして自信を持つことができ「はじめて」笑顔を見せた子もいました。こうした点は、健常者や否かなどという境界線はありません。今回のスクールを通して、『バレーボール』という共通言語で子供達が変わっていく様子を見て、改めて「スポーツの力」、その影響力に自分でも驚くと同時に、逆にこちらが学ぶことの方が多かったようにつくづく感じます。さらには、第一線で活躍するスポーツ選手が自己の記録や名声のみならず広く社会に貢献する、という役割を感想せずにはいられない、と実感できたのも事実です。

スクール風景



スクール風景



スクール風景



スクール風景



事業成果

このたびの独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業、平成23年度「知的障害者バレーボールチームの育成と強化事業」に関しまして、事業成果の総括を以下に記します。

■下記アンケートを対象生徒に向け実施しました。(有効回答数:13)

アンケート回答結果および分析等

【設問1 に対して】

とても満足:8

満足:5

【設問2 に対して】

役立つ情報が得られた:6

日頃の生活や活動に役立った:8

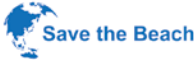
スキルアップにつながった:9

他の参加者との交流・情報交換が図られた:9

抱えていた問題・不安の解消につながった:1

その他(良かった点を具体的に教えてください):12

- ・サーブの打ち方がよくわかった。
- ・サーブの打ち方やアンダー、オーバーなどの打ち方が判り易く教えることがわかって参考になりました。
- ・サーブの打ち方やアンダーの打ち方が判り易く感じました。
- ・楽しかった。
- ・アンダーやオーバーを教えて出来るようになったところがよかった。
- ・オーバー、アンダーを教えてもらって出来るようになったところがよかった。
- ・アンダーのやり方がよくわかりました。
- ・パスが上手になった。また来てください。
- ・上手になった。
- ・練習楽しかった。
- ・とても楽しく勉強になった。
- ・バレーを習って勉強になりました。アタックやパスで将来役に立ちたいです。



Save the Beach in 長崎

「知的障害者のためのバレーボールスクール」に関するアンケート

本日は、本スクールにご参加いただき、誠にありがとうございました。
このアンケートは、当団体の今後の活動の参考とさせていただきますとともに、本事業の実施に必要な助成金（独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業）の事業実施の参考とすることを目的に行うものです。
ご参加いただいた皆様からの忌憚のないご意見をいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

※以下の設問で該当する欄に☑を入れてください

1、本日のスクールの内容全般について、お満足いただけましたか。（4択）

☐ とても満足	☐ 満足	☐ やや不満足	☐ 不満足
（←設問2へ）		（←設問3へ）	

2、（1で「とても満足」「満足」を選んだ方）どのような点が良かったですか。（複数回答可）

☐ 役立つ情報が得られた ☐ 日頃の生活や活動に役立った ☐ スキルアップにつながった
☐ 他の参加者との交流・情報交換が図られた ☐ 抱えていた問題・不安の解消につながった
☐ その他 一良かった点を具体的に教えてください

3、（1で「やや不満足」「不満足」を選んだ方）どのような点が良くなかったですか。（複数回答可）

☐ 役立つ情報が得られなかった ☐ 日頃の生活や活動の参考にならなかった
☐ スキルアップにつながらなかった ☐ 他の参加者との交流・情報交換ができなかった
☐ 抱えていた問題・不安の解消につながらなかった
☐ その他 一良くなかった点を具体的に教えてください

特定非営利活動法人Save the Beach

【分析・まとめ】

参加者全てから「満足」しているという結果を得られました。そして、「スキルアップ」や「打ち方がわかった」などといった回答が多かったことから、その分野のプロから技術指導を受けるという初の試みにおいて、本スクール開催が一定の役割を果たせたのではないかと思います。

■総括

健常者には普通に教える基礎の部分なのですが、彼等にとってはそうした基礎こそが難しく、その分野のトップ選手から教わるという点では集中力を高めてくれ大事なことであったという認識を持つ事ができたように感じます。さらには、それこそが好きになってくれるきっかけの一つにもなり、苦手意識をも克服でき、上達していくという良いサイクルをつくることができたのではないのでしょうか。技術面で、より上達していくことでメディアなどに注目されるくらいまでになれば、必然的に参加者も増えてくれるものと考えられます。指導者の確保という部分では、地域的なことを考慮しても専門的知識に秀でた人間(指導者)がやや少なく不足している感は否めませんが、こうした機会を定期的かつ継続的に行っていくことで、認知されるようになっていけば地域在住の選手の派遣なども円滑になり協力体制が構築できるものと考えられます。

総じて、2014年の国体に向けて、その出場を目的に活動していただくだけではなく、少しでも上位入賞を目指していくことで、周辺地域にも障害者バレーボールの裾野が広がり、波及することが十分に見込まれると思います。開催が近づくにつれメディアでも取り上げる頻度が高まれば、県民の関心も高まっていくと思います。そうした起爆的な役割を果たすのが、再来年に開催される長崎国体と言ってよいかと思います。開催後に参加する人(競技人口)の増加も見込まれ、今から楽しみです。

私たちができることを少しずつでも今後も継続し、活動に盛り込んでいきたいと思っています。

■反省点および今後の課題等

現役選手ということと施設の子供達全員集まるという条件を満たすべく、正式な開催日の決定に大変苦労しました。また、同時に会場との調整などを進めていかねばならないため、当初の計画より、結果としてスクールの開催日が後半にずれ込んできた部分は否めません。

広報面においても、そうした点で少なからず影響したと考えられます。さらなる広範な効果を期待するためには、メディア向けに取材誘致活動などに力を注ぐことも並行して行っていくことが望ましいと感じました。ただ、その反面、回を重ねるにつれ、会場を無償で提供していただくこともできましたので、賛同する方の潜在需要は間違いなく高いと思いました。継続こそが力になる、と実感した今回の事業でした。



Save the Beach

【発行・作成】

特定非営利活動法人 Save the Beach

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-17-4F

TEL: 03-5475-6307

<http://www.savethebeach.jp>